

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1116 2013年3月号

平成24年度

国有林モニター会議を開催

国有林モニターの皆様から、国有林に期待すること等について、意見を頂きました。
【詳細2頁】



平成24年度 国有林モニター会議





モニター会議の様子

平成二四年度

国有林モニター会議を開催



二月二日、四国森林管理

理局において、平成二四年度国有林モニター会議を開

催しました。は、国有林野事業の運営等

依頼しているものです。会議では、出席された一名の国有林モニターの皆様から、国有林に期待すること等について、意見を頂きました。

有林の役割が高まっていると感じた。官公庁や列車等いろんな場所に積極的に木を使っ

てほしい。また、働きかけを行ってほしい。国有林だけでなく、民有林も共同で管理していく必要があるのではない

か。この会議で頂きました国有林モニターの皆様の見解については、四国森林管理局の管理経営業務に活かして参ります。

（主な意見等は次のとおり。）

○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。

○勉強会で実際に自分の目で現地を確かめることができて非常に良かった。

○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。

○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。

○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。

○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。

○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。

○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。

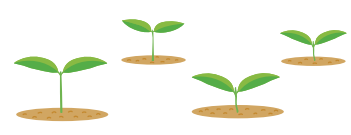
○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。

○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。

○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。

○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。

○山が好きでも森林のことで現地を確かめることができて非常に良かった。





鋸を挽く

各地のたより



間伐体験

〈ふれあいセンター〉

有林で間伐体験を行いました。

一二月一九日、高知県
四万十町立昭和中学校全校
生徒一八名が四万十森林管
理署管内の伊豆ヶ谷山国

この行事は、地域の主要な産業のひとつである林業を体験することによって、自分たちの住む地域の理解や自然環境保全への意識を高めていくことを目的

かれた生徒を四万十森林管理署職員とともに指導にあたり、間伐作業を開始しました。

まず、昨年も経験している上級生がお手本となる伐倒を見せれば、負けじと先生も挑戦しました。受け口作りで斜めに切り込むのは予想以上に苦勞をしましたが、追いつ口を切るときには他の生徒の応援を力に伐倒することが出来ました。毎年行っていることもあつて、上級生の中には数分で伐倒する慣れた生徒もおり、約一時間の作業で数十本が伐倒された林内は見違えるように明るくなりました。

に毎年恒例行事として実施されています。初めに、ふれあいセンター所長が、ニホンジカによる食害で植生が変化している様子や間伐の必要性、安全な木の伐倒方法などを説明しました。

その後、五班に分

間伐作業を行うことで、森林整備の大切さや大変

さを実感出来た事でしょう。

ジビエであったか・

だんらん会

〈ふれあいセンター〉

暖かい晴天となった二月

一〇日、四万十市西土佐江川崎の西土佐ふれあいホールで「ジビエであったか・だんらん会」が開催され、当センターも「アニマル木工教室」で参加しました。

会場には、「鹿マン（ネパールカレー風）」「シカ照り焼きピザ」等々、ジビエ料理を中心として一店舗が出店。珍しさもあり、大部分のコーナーの料理は早々と売り切れていました。

この催しは、ニホンジカやイノシシなどの獣害被害が増加するなか、被害を少しでも抑えることへの第一歩として、ジビエ（野生獣肉）料理について認知してもらおうと、NPO法人未来地域創造推進機構（F

また、ふるまわれた「シカ汁」も「意外と臭いがなくおいしい」と長蛇の列となり、沢山の来場者が舌鼓を打つ光景が見られました。

間伐作業を行うことで、森林整備の大切さや大変

ホールの一面に設けた当センターの「アニマル木工教室」も順番待ちの親子連れなどであふれ、終日、大忙し。来場者の中には、森林教室で顔なじみとなった



賑わう木工コーナー

愛媛県松野町の松野西小学校の児童をはじめ、「木の枝を使った木工が目的ではあるが大豊町から来た」という女性グループもいて、職員がこの日のためにと製作したシカの見本などに「めっこしながら挑戦していただきました。」

公務員宿舎を

津波避難ビルに

〈徳島森林管理署〉

と一体となつてのの取り組みは有意義なものとなりました。なお、主催者によると来場者は五〇八人で、西土佐地域外が多く、約一〇%が県外からの来場者だったとのこと。

四国沖の南海トラフ付近では、マグニチュード8クラスの巨大地震が周期的に発生することが知られており、これに伴う津波の襲来が危惧されているところで、徳島県の試算では、徳島市には五メートル以上の

津波が押し寄せる恐れがあるとされていますが、これは管理署庁舎及び隣接する公務員宿舎の二階部分まで水没する深さになります。当署が位置する徳島市川内町は平坦な田園地帯で、津波が襲来したときに避難する高台がなく、特に当署の周辺には高い建物もありません。津波の危険がある場合は、昨年開通した「阿波しらさぎ大橋」に避難することが想定されています

が、逃げ遅れた場合は、四階建ての公務員宿舎の三階以上に避難することが現実的です。一方、徳島市では沿岸部を主体に、避難対象地区に建築されているビルを津波避難ビルに指定し、津波に

備える取り組みを進めています。この徳島市の要請に応え、万が一の場合には地元の方々の避難にも資するよう、現在、公務員宿舎を避難ビルにするための工事を実施中です。具体的には、四階の外廊下から屋上に登るための安全なタラップを取り付け、屋上には転落防止の手すり及び非常食等が備蓄できる建屋を新設することとしています。

現在、鉄骨工事がほぼ完了し、三月中旬には全ての工事が完成する予定ですが、完成後は徳島市と協定を結んだ上で、徳島市から正式に津波避難ビルに指定され、津波の危険がある場合は、当署の職員を含め約

百名の周辺住民を受け入れることが可能となります。平成二五年度からは国有林野事業は一般会計化され、より一層公益重視の業務運営を行うことが求められますが、当署では災害への備えについても国有林が有する施設等を活用し、地域のために貢献できればと考えています。



津波避難ビル化の工事中